

豊かな草原環境を守る採草の継続に向けて、さまざまな実証試験を行っています

THEME 01

ボランティアによる野草地での採草の実証試験が行われました

機械化しにくい野草地の採草作業は、担い手不足から作業をとりやめる農家が増えています。今回の実証試験は、採草地の環境を少しでも守っていく一助とするため、現在野焼きなどで活躍されているボランティアの協力により、牧野組合による採草を継続・再開していくことが



刈り払い機による野草地の採草作業 (H16.9.25)

できないか、検証するものです。

高森町村山牧野で、以前は朝草刈りに利用されていた採草地に0.5haの試験区を設定。9月25日と10月4日、ボランティアが採草、集草、結束、積み込みの作業を行い、背丈ほどにもなったススキに苦労しながら、4トンもの野草を収穫しました。



結束した草の積み込み作業 (H16.10.4)

参加者からは「採草は重労働だが、草原環境保全のためならまた参加したい」との声がたくさん寄せられました。

THEME 02

NPO法人九州バイオマスフォーラムによる草の収穫実験が行われました

九州バイオマスフォーラムでは、野草を使ったエコビジネスで草原を保全しようという取組みを始めました。飼料や堆肥、屋根材（カヤ）、そしてエネルギー源…。野草には様々な利用方法があるのです。その第一段階としてまず、阿蘇産の野草を販売する「草流通センター」を実現するため、今年度は実験事業や調査事業に取り組んでいます。



収穫した野草をハウス内で乾燥させる

9月14日には阿蘇町赤水の耕作放棄地で野草を採草し、収量や夏草の栄養価などについて分析中です。10月6日、久木野村の牧野において飼料用の野草を刈り取りました。10月からは販売体制の検討に入る予定です。

インタビュー 草原を守る人々



岩下道幸氏

波野村長畑集落在住 電神牧野組合組合員

電神牧野は合計面積16ha、阿蘇の中では小さな牧野ですが、ここ3年ほど野焼きができずグミなどの雑木が増えてきています。集落の有畜農家が年々減り続け、人手が足りないためです。牧野が荒れるのを防ぎ、放牧を続けていくため、少しずつでも恒久的な防火帯を延ばし、何としても野焼きを復活させたいと考えています。

波野村は高冷地野菜で有名です。私もキャベツを大量に生産・出荷していますが、これには野草を醸酵させて作った堆肥を使っています。この堆肥を入れた土からは、安全・安心で収穫後も鮮度が落ちにくい野菜が育ち、連作障害や病気の予防にも効果があるからです。消費者の理解が進み、草原環境を守ることにつながる野菜作りがもっと盛んになることを期待しています。